

Luxman

VACUUM TUBE INTEGRATED AMPLIFIER

SQ-N100

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンの真空管プリメインアンプSQ-N100をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHKがラジオの本放送を開始した1925年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、80余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が充分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次

使用上のご注意	3
各部の名称と用途	4
接続方法	8
接続図	9
操作方法	10
ブロックダイアグラム	11
規格	12
アフターサービスと品質保証について	13
修理に出される前に	14

設置場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

通風孔について

本機は、真空管を使用した発熱の多いアンプのため、真空管カバー・底板の通風孔はふさがらないでください。なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を上積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。

天板の上部は20cm以上の空間を空け、底板の下部には4本の脚の高さ分、空間を空けてください。

併用機器との接続時の注意

本機にCD/DVDプレーヤー、チューナーなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因になったりすることがあります。

本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N比悪化の原因になります。

スピーカー接続時の注意

スピーカー・システムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子の部分で、⊕⊖間がショート(短絡)することのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

電源オン後すぐに音は出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミューティング回路が組み込まれているため、電源オン後すぐには音が出ません。

このタイム・ミューティング回路が解除されるまでに音量ボリュームが上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。音量ボリュームは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度なレベルにセットしてください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニング・クロスなどの柔らかい布で拭いてください。

汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

安全上のご注意



警告



本機のAC アウトレットが供給できる電力は200W までです。接続する装置の消費電力の合計が200W を超えないようにしてください。火災の原因となります。(電熱器具、ヘッドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。)

安全上のご注意

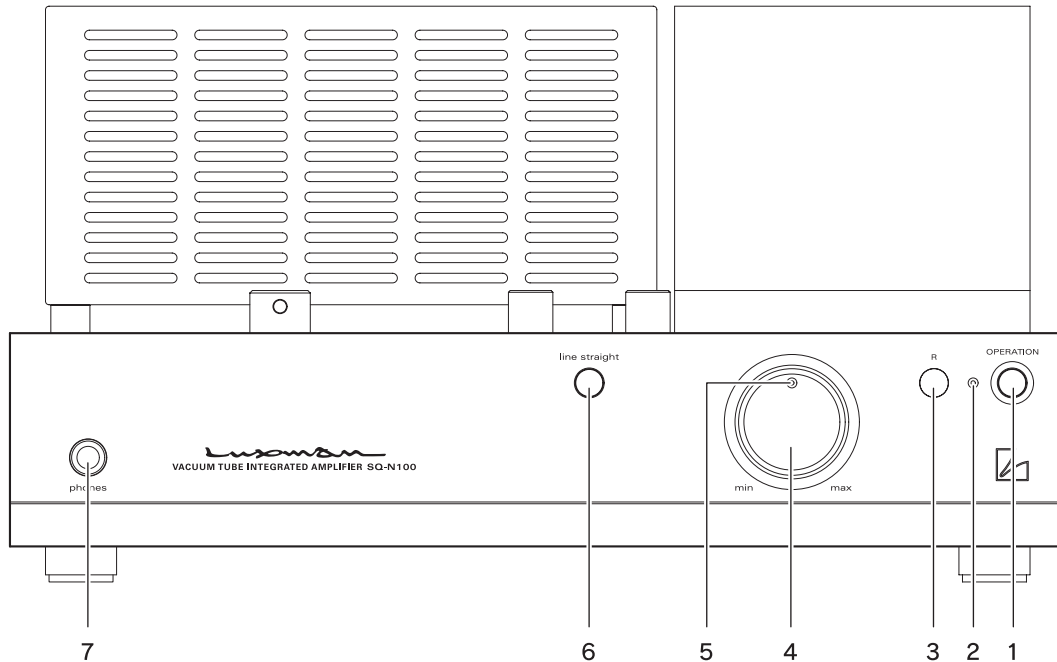


注意



本機は重いので、開梱や持ち運び、設置の際は充分にご注意ください。

フロントパネル



1. 電源スイッチ (OPERATION)

電源をオン/オフするためのスイッチです。入出力端子の接続時には必ずこのスイッチをオフにしてください。

電源スイッチをオフにしてから、再度オンにするときは1分以上時間をおいてください。

2. 電源インジケータ

電源スイッチをオンにすると黄色に点灯し、本機が通電状態にあることを示します。

3. リモコン受光部 (R)

付属のリモコンからの信号を受信するためのセンサーです。

センサーの前はふさがないようにしてください。

4. 音量ボリューム (VOLUME)

音量を調節するためのつまみです。左側へ回し切った位置では音が出ません。右に回していくと音量は徐々に大きくなっていきます。

5. 音量ボリューム・インジケータ

音量レベルの指標となるインジケータです。

電源スイッチを入れた直後のミュート(消音)時間中、またはリモコンのミュート(MUTE)操作を行なった際は点滅します。

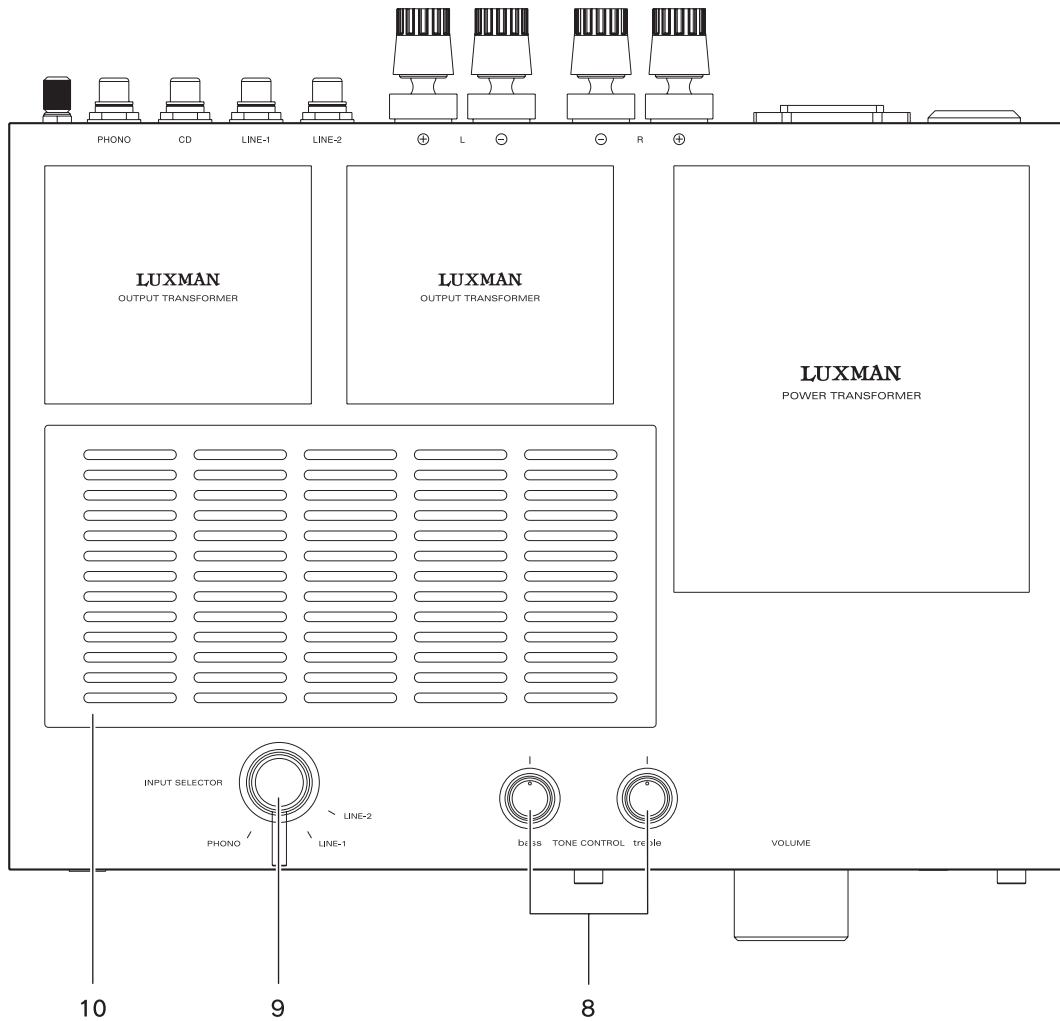
6. ライン・ストレート・スイッチ (line straight)

トーン・コントロール回路をバイパス(飛び越し)することによって音質の純度をより高めるためのスイッチです。

7. ヘッドフォン・ジャック (phones)

ステレオ・ヘッドフォンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドフォンのプラグを差し込んでください。プラグを差し込むとスピーカー端子への信号出力が切れます。プラグを抜くと再びスピーカー端子へ信号が出力されます。

トップパネル



8. トーン・コントロール
(TONE CONTROL, bass, treble)

bass: 低音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと低音域が増強し、左に回せば減衰します。

なお、ライン・ストレート・スイッチがオンの状態では調節できません。

treble: 高音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと高音域が増強し、左に回せば減衰します。

なお、ライン・ストレート・スイッチがオンの状態では調節できません。

9. 入力セレクトター
(INPUT SELECTOR)

レコードプレーヤー、CD/DVD プレーヤー、チューナーなど各入力端子に接続した入力機器を選択するためのスイッチです。

PHONO、CD、LINE-1、LINE-2の4つの位置があり、それぞれリアパネルの入力端子と対応しています。再生したい入力の位置にツマミを合わせて選択してください。

10. 真空管カバー

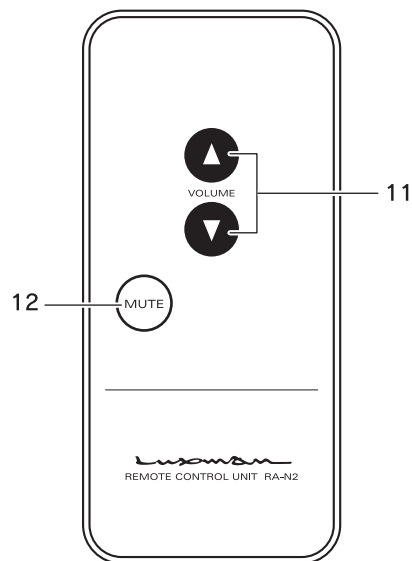
真空管を保護するためのカバーです。安全のため、常に装着した状態で使用ください。

安全上のご注意



本機は真空管を使用したアンプです。電源の入った状態では本体がかなり熱くなりますので、手で触れたりすることのないようお気をつけください。また小さなお子様のいる場所でのご使用は安全のためお控えください。

リモートコントローラー(RA-N2)



11.ボリューム (VOLUME, ▲, ▼)

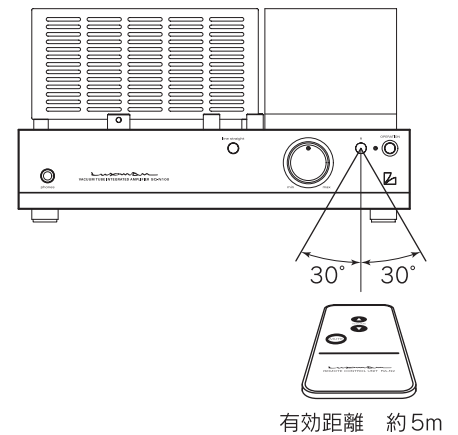
音量を調節するためのボタンです。
▼で音量を小さく、▲で音量を大きくします。

12.ミュート (MUTE)

一時的に消音するためのボタンです。
このボタンを押してミュート状態にするとボリューム・インジケータが点滅し、音が出なくなります。再び押してミュートが解除されると音が出ます。

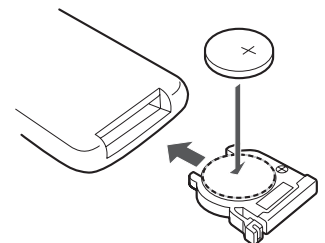
リモコンについて

リモコンは、本機のリモコン受光部へ向けて、図の範囲でお使いください。



【電池の入れ方】

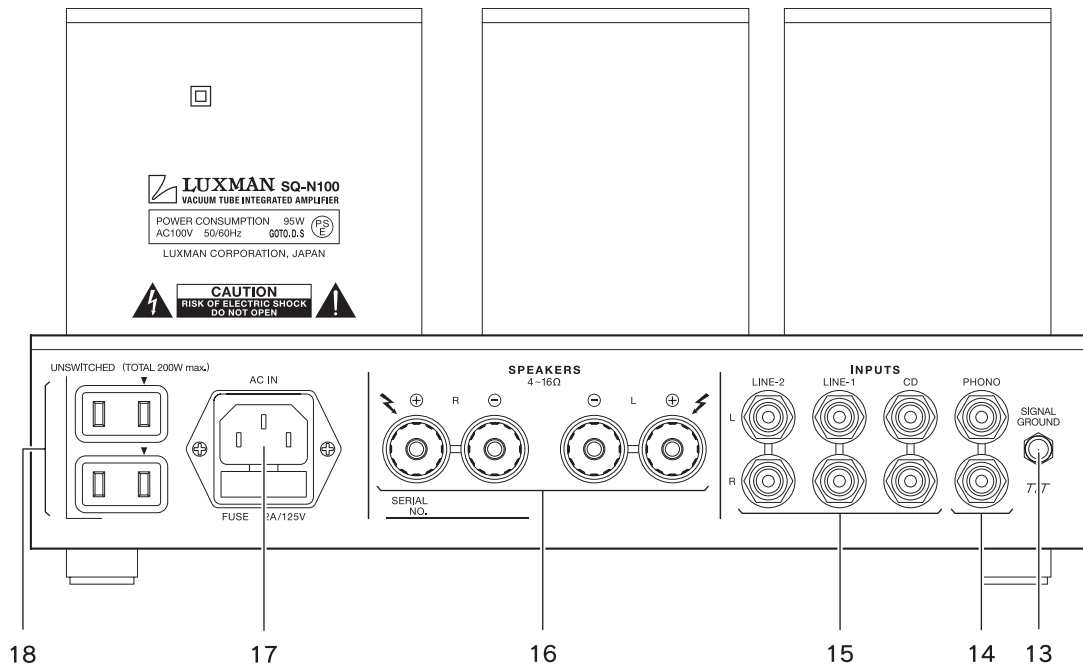
1. リモコンの裏面にあるバッテリー・カバーのツメに指をかけて、バッテリー・カバーを下へスライドして開きます。
2. バッテリー・ケースの中の図と同じように電池 (CR2025) を入れます。
3. バッテリー・カバーを閉じます。



※電池が消耗してくると、有効距離が短くなったり、スイッチを押しても動作しません。このようなときは、電池を新しいものに交換してください。

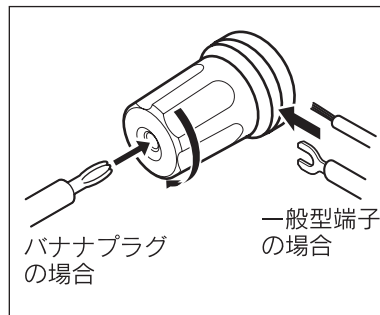
※長期間リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。

リアパネル部



13. シグナル・グラウンド端子 (SIGNAL GROUND)

本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全のためのアースではありません。



14. フォノ入力端子 (PHONO)

アナログレコード・プレーヤーを接続するための入力端子です。

15. ライン入力端子 (CD, LINE-1, LINE-2)

CD/DVD プレーヤー、SACD プレーヤー、チューナー、ビデオデッキ、TV 音声などのハイレベル信号入力のための端子です。これらの入力端子はすべて同じ働きをします。

16. スピーカー出力端子 (SPEAKERS)

この端子にスピーカー・システムを接続します。L 側には左スピーカーの端子を、R 側には右スピーカーの端子を、極性(⊕、⊖)を合わせて接続してください。

17. AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

18. AC アウトレット (UNSWITCHED)

他の機器へ電源を供給するための補助電源コンセントです。本機の電源スイッチのオン・オフに関係なく、電力を供給します。

- ・本機の AC アウトレットが供給できる電力は 200W までです。接続する機器の消費電力の合計が 200W を超えないようにしてください。
- ・また、供給電力以内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

接続する前に

他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック側（穴が3つある方）を本機のACインレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源スイッチと併用機器の電源をすべてオフにしてください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、ACプラグをリスニングルームなどにあるAC100Vのコンセントに差し込んでください。

電源極性の合わせ方

一般家庭用の2極の電源コンセントは一方がアース、もう一方が交流100Vとなっており、電源ケーブルのプラグを正しい向きに差し込んでいただくことで、電源の極性が全ての機器で一致し、より高音質な音楽再生をお楽しみいただくことができます。

本機に付属の電源コードでは、プラグ部に刻印されている文字の上下を合わせて見たとき、右側の端子がアース側となります。

部屋のコンセントのアース側が区別されているとき（差し込み穴が広がっています）は、プラグのアース側がコンセントのアース側になるように差し込んでください。

※ コンセントのアース側が区別されていないときなど、どちらの向きに電源プラグを差し込んでも本機の基本性能には影響ありません。

CD プレーヤー、DVD プレーヤー、チューナーなどの接続

CD プレーヤーなど再生機器の出力端子と、本機のライン入力端子（CD、LINE-1、LINE-2 のいずれか）間をL、R 2本のピンプラグ・ケーブルで接続してください。

接続のときは、左右を間違えないようにしてください。

レコード・プレーヤーの接続

アナログ・レコード・プレーヤーの出力端子と本機のフォノ（PHONO）端子間をL、R 2本のピンプラグ・ケーブルで接続します。

プレーヤーによってはフォノ・モーターやトーン・アームからのアース線を本機のシグナル・グラウンド端子に接続します。

本機のフォノ・イコライザー部はMMカートリッジに対応しています。

出力電圧の低いMCカートリッジなどをお使いになる場合には、別途ヘッドアンプやステップアップトランスなどを経由したうえ接続してください。

フォノ・イコライザー付きのアナログ・レコード・プレーヤーまたは、単体のフォノ・イコライザーの出力は、本機のライン入力端子（CD、LINE-1、LINE-2 のいずれか）に接続してください。

スピーカーの接続

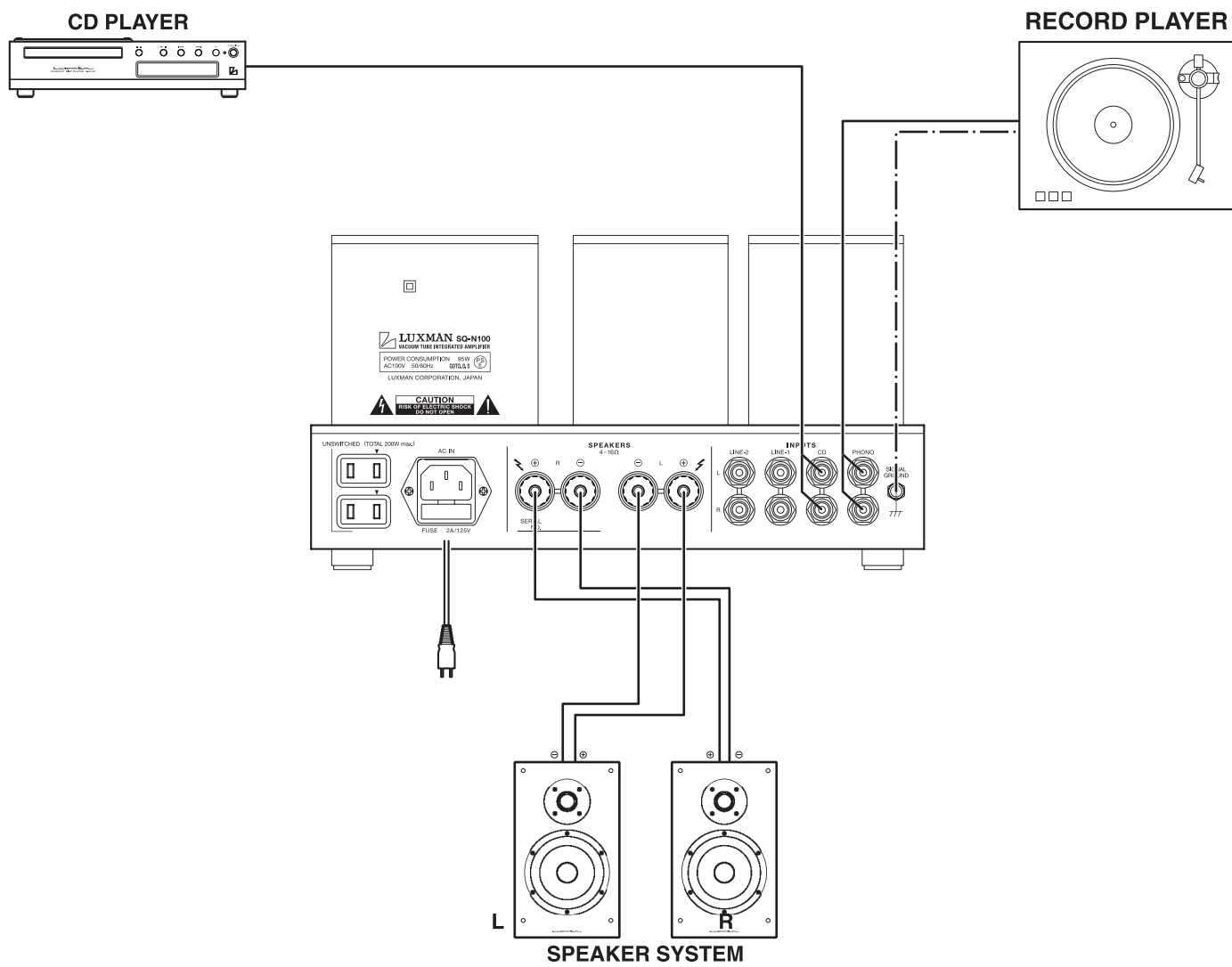
本機の左スピーカー端子に左チャンネル用のスピーカーを、右スピーカー端子に右チャンネル用のスピーカーを接続してください。

スピーカー・システムの⊕端子を本機のスピーカー端子の赤（⊕側）端子に、スピーカー・システムの⊖端子を本機のスピーカー端子の黒（⊖側）端子に、確実に接続してください。このとき、左右スピーカー・システムの一方だけの⊕端子、⊖端子を逆に接続すると、左右のスピーカー・システムから再生される音波の位相が逆になり、低音が減少したり、音の定位が悪くなるなどの状況が生じ、正常なステレオ再生ができなくなります。

他の機器の電源ケーブルの接続

メモリー（記憶）機能を持った機器には、常に電源が供給されていることが必要です。

本機のACアウトレットからこれらの機器に電源を供給する場合は本機の電源プラグを必ず差し込んでおいてください。



操作する前に

1. 接続が確実に行われているか確認してください。(L, R や⊕、⊖の接続の誤りがあると正常な再生ができません。)
2. 電源オン/オフ時や入力セレクター (INPUT SELECTOR) を切り換えるときは、音量 (VOLUME) を最小にしてから行ってください。

再生の手順

1. 音量 (VOLUME) が下がっていることを確認し、電源スイッチ (OPERATION) を押してオンにします。
2. 再生する接続機器を入力セレクター (INPUT SELECTOR) で選択します。
3. 音量をボリューム (VOLUME) で調節します。
4. 再生するソースに応じてトーン・コントロール (TONE CONTROL)、ライン・ストレート・スイッチ (line straight) を操作します。

ライン・ストレート・スイッチの操作

入力セレクター (INPUT SELECTOR) で選んだソースの純度を高めるため、最短の信号経路で再生するとき使用します。このスイッチがオンのときは、トーン・コントロール (TONE CONTROL) はバイパス (飛び越し) されます。

トーン・コントロール機能の操作

本機のトーン・コントロール (TONE CONTROL) 機能には、低域用レベル・コントロール (bass) と高域用レベル・コントロール (treble) があります。低域用レベル・コントロール (bass) は、300Hz 以下の低音域を変化させるものです。中央位置でフラットな周波数特性となるように設計されており、この位置より右に回すと低音域が増強し、左に回すと減衰します。

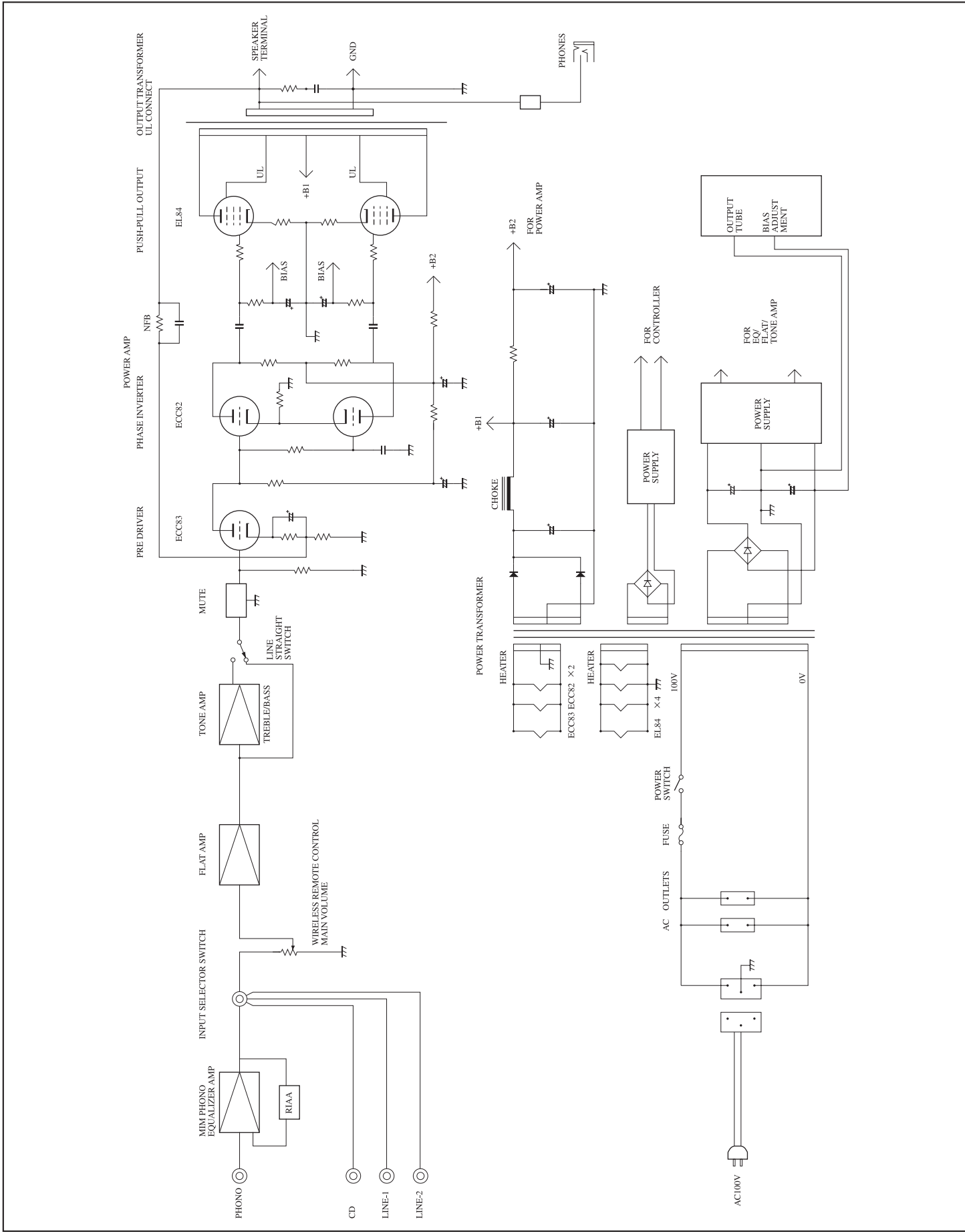
高域用レベル・コントロール (treble) は、3KHz 以上の高音域を変化させるものです。

低域用レベル・コントロール (bass) と同様に、中央位置でフラット、右に回すと高音域が増強し、左に回すと減衰します。

なお、低域用レベル・コントロール (bass)、高域用レベル・コントロール (treble) はいずれも左右チャンネルが連動して働きます。

ライン・ストレート・スイッチ (line straight) がオンのとき、このトーン・コントロール (TONE CONTROL) は働きません。

SQ-N100 Block Diagram



規 格

定格出力	12W + 12W (6Ω)、10W + 10W (8Ω、4Ω)
入力感度	ライン 150mV、フォノ (MM 対応) 2.2mV
入力インピーダンス	47KΩ
周波数特性	20Hz ~ 50KHz (-3dB 以内)
全高調波歪率	0.3%以下 (1KHz 定格出力)
S / N 比	90dB 以上
入力	ライン 3 系統、フォノ (MM 対応) 1 系統
出力	スピーカー 1 系統
機能	リモコン対応(音量)、ヘッドフォン出力 トーン・コントロール(バイパス可)、AC インレット AC アウトレット × 2(非連動、最大計 200W)
回路方式	ムラードタイプ UL 接続
使用真空管	ECC83 × 1、ECC82 × 2、EL84 × 4
消費電力	95W (電気用品安全法)、71W (無信号時)
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)
付属品	リモコン、電源ケーブル
外形寸法	297W × 162H × 210 (258) D mm (括弧内は入出力端子、操作ノブ含む)
重量	11.5kg

※規格および外観は予告なく変更することがあります。

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービス・センターまたはお求めの販売店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

本機の保証期間は購入日より起算して2年間（ただし、レーザーピックアップや真空管などの消耗品は1年間）です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機の梱包箱内に入っていますので、お買い上げ販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証登録書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

ラックスマン株式会社

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-3-1

AG00987C37A

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービス・センターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などをいただくことがあります。

症 状	原 因	対 策
電源スイッチを押し ても電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。 電源プラグがACインレットから外れているか、確実に差し込まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。 電源プラグをACインレットへ確実に差し込む。
電源は入るが左右チ ャンネルとも音が出 ない。	<ul style="list-style-type: none"> ボリュームが最小の位置になっている。 ボリュームがミュートになっている。 インプット・セレクターが再生するソースの位置にセットされていない。 接続ケーブルの接続が不完全。 再生機器の出力レベルが最小になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ボリュームを右に回して音量を調節する。 ミュートを解除する。 インプット・セレクターを再生するソースの位置にセットする。 接続ケーブルを確実に接続する。 出力レベルを調節する。
片側だけ音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> 接続ケーブルの片側だけが接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続を確実にこなう。
ハム音（ブーン、ま たはジーというノイ ズ）が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ピンプラグ・ケーブルのアース側が端子に接触していない。 レコード・プレーヤーのアース線が接続されていない。 レコード・プレーヤーのカートリッジとシェル、またはシェルとトーンアームの接続、取り付けが不完全。 電源ケーブルと信号ケーブルが接近している。 他機器の電源トランスから誘導ノイズを受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ピンプラグ・ケーブルのアース側が接続するように確実に接続する。 レコード・プレーヤーのアース線をシグナル・グラウンド端子に接続する。 カートリッジ、シェル、トーンアームを確実に接続（取り付け）する。 電源ケーブルと信号ケーブルを離して配線する。 他機器から離して設置する。
トーン・コントロー ルの効果が現れない。	<ul style="list-style-type: none"> ライン・ストレート・スイッチがオンになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> トーン・コントロールを使用するときは、ライン・ストレート・スイッチをオフにする。

